

家庭平和協会創設大会

創設者基調演説文

2017年12月2日
大韓民国ソウル市



Copyright © Family Peace Association (家庭平和協会)
不許複製・禁無断転載。家庭平和協会の事前の書面による許可なく、本書の全文もしくは一部内容を無断で使用、複製、オンライン掲載することを禁じます。

開会挨拶

世界各地からお越しくくださった、著名な宗教指導者、内外の貴賓、家庭平和協会の創設会員の皆様。

私の生まれ故郷、韓国ソウルによろこそ。歴史的な家庭平和協会創設大会にお越しいただき、心より感謝申し上げます。

創設大会のテーマは、「神中心の家庭に基づく霊的意識の創造」というものです。このテーマは、この新しい組織の熱い志を表すとともに、今日の世界が抱える困難な課題に対し、シンプルかつ深遠な解決策も提示しています。

私はこれまで 20 年以上にわたり、全世界で One Family Under God (神の下の一家族) というビジョンを推進してまいりました。当初、そのための手段として、統一運動という大きな枠組みの中で各組織を活用してきました。それらの組織はある程度の成果を上げましたが、各組織が生み出した問題と共に、制度や運営にも限界がありました。そこで私は 2009 年、ミッションを継続して遂行するために、独立した組織としてグローバル・ピース・ファウンデーション(GPF)を設立しました。皆様の多くがご存じのように、この GPF が、私どものビジョンを大きく前進させてきたのです。

しかし、真の変革を成し遂げるためには、GPF の活動とそのミッションを補完する新たな組織が必要です。この新組織は設立当初から、あらゆるレベルにおける平和のためのグローバルな「草の根運動」を鼓舞するスピリチュアルな方向性を有していなければなりません。また、個人、家庭、社会、国家、世界において、関連性があり、シンプル、かつ有意義なものでなければなりません。さらに、この時代の内外のあらゆる分裂を乗り越えて人類家族を一つにする会員制の組織でなければなりません。

家庭平和協会こそ、その新たな組織なのです。

創造目的

皆様、家庭とは、人としての生き方を決定づける最も基本となる制度です。家庭は、神の創造本然のビジョンが根をおろす神聖な制度です。家庭は、真の愛、自己犠牲の利他的愛の泉にならなければなりません。そして真の生命が形成される「愛の学校」になり、全人類が、血統の契約によって、神の真の血統に直接的につながる神の直接主管圏の本拠地

にならなければなりませんでした。

神はただ我々の創造主となる代わりに、我々の真の父母として、神の息子娘らと共に、実体的地上天国を建設しようとされました。神の最も深い願いは、愛の親子関係によって、全人類の生命に密接につながることであります。この血縁関係を通して、神はご自身の存在を大きな家族関係のネットワークに拡大し、神の真理、正義、善を、神の息子娘たち、特に、すぐ次の世代に残すことを願われたのです。このような神中心の家庭こそ、平和な理想世界の基礎単位になるのであり、そうならなければなりませんでした。

家庭の重要性

我々が経験する最も親密で根本的な関係は、家庭の中で見いだされるということに皆様全員が同意されると思います。それ故に、どのような文化、民族、人種、国籍であれ、親密な家族関係が普遍的な理想とされているのです。ですから我々は、家族以外の人との関係において、その親密さを強調したいとき、家族に関する表現を用いるのです。親しい友人たちは私の兄弟、私の姉妹のようだと言い、尊敬する年長者や師を私の父、私の母のようだと言い、深く愛する年少者は、私の子供のようにだと話すのです。

この親密な関係故に、家庭は自然に愛情や相互依存性、社会的つながりを学ぶ学校になります。人生に関する驚くべき事実は、誰もが自分で選択するのではなく、与えられた環境のなかで人生が始まるということです。両親が愛で結ばれた結果として、この世界に完全に無力な状態で生まれ、父母の愛と保護に依存して生存し成長して行きます。そして兄弟姉妹、祖父母、おじ・おば、いとこの関係を体験していくなかで、人間とは最初から本質的に社会的な存在であり、相互依存する存在であるということを学んでいきます。その結果、アイデンティティや目的意識、幸福が他者との深い愛情関係によって決まるということを理解するようになり、自然に家庭のなかで唯一つしかない自らの位置と役割を悟るようになります。

普遍的原理と価値観

価値観や規範に広く異論が投げかけられ、再定義されているこの時代において、由緒あるスピリチュアルな原理と価値観を明確にし、高揚していくことは急務です。そのような原理はこの混乱のなか、神の神聖なる愛を中心とする家庭に基づく神の理想へ人類を導く必要不可欠な羅針盤になるのです。そのような普遍的原理の証拠を見つけるにおいては遠くを見る必要があります。

まず、由緒ある伝統を守り、教え、実践してきた主要宗教の伝統を見れば良いのです。こうした伝統は人間の生命の本質的価値を教えてくれると共に、人間関係、特に家族における関係の正しい秩序を説き、人生の基準となる徳を教えています。伝統宗教の教義はそれぞれ異なるかもしれませんが、教義の違いは教えの中の小さな部分に過ぎません。宗教の教えの大部分は普遍的真理を教えています。この真理は全ての信仰者が共有する普遍的かつスピリチュアルな原理と価値の土台となっているのです。

第二に、自然界に目を向ければ、あらゆる被造物に存在する秩序や設計に神の手を感じる事ができます。私は多くの時間を自然の中で過ごします。自然は、私が神の導きを求め、内なる精神を高める第一の礼拝堂であるからです。アラスカの過酷な山々や、アフリカのサバンナの猛暑のなかで、自分を偽って創りだした見せかけの姿の背後に隠れることはできません。自分の真の姿を見つめざるを得なくなるのです。それ故に、偉大な宗教指導者の多くは、創造主を理解し、その創造目的を知ろうとしたとき、自然のなかへ向かったのです。

普遍的原理の証拠を提供する 3 つ目の分野は、社会科学です。自然科学が想像を絶するスピードで発展し、自然界の理解を深めている一方、社会科学も、何が幸福や成就感、健康に益をもたらすのか、人との相互作用をより客観的に理解することのできるあらゆる手法を発展させています。歪曲したり、利己的で意図的な目的を持たずに見れば、伝統的な家庭観の重要性を示す経験的データは豊富にあります。

現代の世界の緊迫状況

このような家庭に関する真理は、ここにお集まりくださった皆様には、自明のことでしょう。しかし今日、先進国は、様々な方面から深刻な挑戦を受けています。歴史を通して家庭を定義し社会の結束の基盤を提供して来た伝統的思想や根本的な価値観に疑問が投げかけられています。特に西洋の家庭における内的な葛藤や混乱は、道徳的権威の失墜を反映するものとして他の国々の目に映るため、全世界に影響を及ぼします。

過去一世紀の間、西洋が及ぼした影響は否定できませんが、西洋は、この地球に暮らす 75 億の人類のごく一部に過ぎません。それにも関わらず、西洋はこれまで、人間の状態を向上させる基本的人権や自由といった普遍的理想を擁護することで、人類共同体をリードしてきました。こうしたスピリチュアルな原理や価値観は、ユダヤ・キリスト教的な伝統から来たものです。しかし、1960 年代の世俗的な進歩的運動の台頭と共に、神や信仰という言葉を公の場で言及することが憚られるところまで西洋文化における由緒ある伝統がむしばまれてしまいました。

しかし、発展途上国の多くがカウンターカルチャー運動の社会実験の多くを拒否する伝統的・宗教的な社会と文化を持っています。西洋の過剰な物質主義的・世俗的文化は、発展途上国の大半で不快に思われています。先進国のような繁栄を求めています、現代の西洋の価値観を取り入れたくはないのです。

世界的なテロとの戦いというテーマに関する多数の専門家が認めているように、イスラム教のテロリスト集団は、西洋がこの時代の道徳的指導者としての道を失ったという共通認識の広がりを利用しています。この世界的衝突の本質は、宗教的含みを持つと同時に、「道徳的権威とスピリチュアルなリーダーシップ」というさらに深い問題を示唆しています。イスラムの過激化という問題は、イスラム信仰共同体内で対処すべきではありますが、イスラム教や宗教のテロリズムは、個別宗教の教理の境界を超え、根本的な普遍的真理で人類を啓蒙することのできるスピリチュアルなイデオロギーによって打ち破ることができることでしょ

スピリチュアルな覚醒の必要性

先進国の物質主義的・世俗的文化では度々、自己犠牲や自制、持続的な人間関係よりも、即時的満足を重要視します。また、ソーシャルメディアとインターネット上の非人間的仮想世界の出現により、利己的で極端な個人主義へ向かう憂慮すべき傾向が表れています。人との交流や深い内省を減少させるという理由から、多くの人々はこのようなテクノロジーの発展による社会的効果を憂慮し、こうした傾向が長期的にもたらす影響について懸念しています。そして何より深刻な事は、テクノロジーが世界の全ての問題を解決できるという共通認識が広がりながら、人間の霊的意識に基づく人生の根本的な意味と本質を破壊するテクノロジー主導のユートピア理想が拡散されているということです。

しかしこの霊的意識こそが、人類に新しい次元の啓発された知性をもたらした人類歴史上の全ての「大覚醒」の基盤であったのです。ユーラシア大陸の「パクス・モンゴリカ¹」からヨーロッパの宗教改革と啓蒙主義に至るまでに、信教・通商・思想の自由と、個人の功績・才能の重要性という普遍的理想が誕生し、育まれ、発展していきました。

このような理想が、基本的人権と自由を擁護するアメリカ合衆国を誕生させ、西洋を特徴づける理想になったのです。どんな時にも、歴史的意義のある発展を促進したものは、スピリチュアルな真理の追究でありました。

¹ 13世紀から14世紀に渡りユーラシア大陸を支配したモンゴル帝国の覇権による平和で安定した時代

新しい霊的意識の不在は、人種、民族、宗教、経済、イデオロギー、党派による重大な社会的亀裂のなかにある最も先進化された国々の社会構造を分裂させている原因となっています。財産、テクノロジー、豊富な商品とサービスは、物質的なニーズを満たすことはできても、真理や意義を求める精神の欲求を満たすことはできないということを、多くの人々が悟り始めています。このニーズを満たそうとすれば、人はその魂を「覚醒させる」しかないのです。

神中心の家庭の重要性

家庭は、人間に絶対的に必要な身体的・情緒的・精神的ニーズに応える社会の最も基礎的な構成単位です。したがって家庭が、人生において重要で有意義であるということは普遍的に言えることです。我々が誰として生まれ、どのように育ち、何より重要な、最も深い関係がどのようなものかを定義するのも家庭です。それ故に家庭は自然に、個人、家庭、社会、国家、世界における全ての有意義な変革の出発点になるのです。

神が全ての真理、正義、善の根源であられるため、そうした理想を反映する家庭を築くには、神の臨在と祝福が不可欠です。基本的人権と自由という理想は人間の制度ではなく、創造主に由来するように、人間の完成は、神の目的に一致しているときにのみ可能なのです。真の自由と、人間の本質的な価値は、精神と良心の命令を認識し、それに従って生きるときに、はじめて実現するのです。こうした理想は、まず家庭の中で育み、体験する必要があり、それから社会、国家、世界へと広げていくことができます。

そのような家庭を通して、人類は啓蒙される機会を得て、平和と共栄の世界の建設に積極的に参加するようになるのです。そうした家庭において、普遍的原理と価値観が実在するようになり、神の真理と正義と善が現れます。このような家庭の変わらない本然の目的は、創設大会の「神中心の家庭に基づく霊的意識の創造」というテーマを実体化することを意味しています。

わが父の使命を継ぐ

皆様、本日は、私にとって大変意義深い日です。この日は全世界の男女と家庭、伝統宗教、様々な組織から来られた皆様が、共に神中心の家庭を育む決意を表明する、人類史において一時代を画す日です。一方でこの創設大会は、私の父が生涯をかけた仕事を継ぎ、続けていくという私個人の決意を意味しています。

父は、全人類が神中心の家庭を築けるよう導くグローバルな運動を起こすために、世界平和統一家庭連合を創設されました。公のスピーチで、父はよくこう述べていました。「神が人類を創造した究極的な目的はどこにあると思いますか？それは真の愛を中心とした理想家庭の完成を通して喜びを感じることでした。…神様と一つの家族を成し、永遠に喜びを感じて生きる道である …」

父がこのミッションを明確にし、実現しようとしたとき、父が直面した困難を私はこの目で見えました。父は、全人類が平和と幸福のなかで共に生きる道を見いだせという神の召命に応えることに、全生涯を捧げられました。父の献身は一民族や一宗教のためではなく、全人類のためのものでした。父は一般大衆から誤解されることが多く、利己的な政治意図を持った支持者たちによって利用されることさえありました。それでも父は最後まで、神と人類に対する決意を固く守られました。その父の息子として、父の夢と同じ夢を持つ者として、私はこの夢を成し遂げることを誓います。

1998年に、「世界平和統一家庭連合」の国際副会長に任命されたとき、天と人類の前に、私は約束したのです。「神中心の家庭の形成を通して神の王国を拡大する私の両親の夢を押し進める」と。世界平和統一家庭連合は、父の立てた本来のミッションにそぐわないため、これ以上家庭連合を通して活動することはできませんが、今日家庭平和協会を創設することを通して私はその約束を守っています。

このスピリチュアルな運動は、私の父を生涯突き動かしたビジョン、即ち、人類が One Family Under God (神の下の一大家族)として生きる平和理想世界の夢を前進させることでしょう。

行動の呼びかけ

今日、我々は歴史の転換点に立っています。今、世界において、人類のスピリチュアルな意識の新たな大覚醒の機が熟しています。しかし同時に、神聖な制度であるべき家庭が、現代文化の中で作用する様々な破壊的勢力によって我々の目前で弱体化し、社会の絆が崩壊しつつあります。その結果、世俗的なものであれ宗教的なものであれ、人間だけにより作られた制度が、すでに存在していた人類の分裂を深めているのです。

神中心の家庭は、神性を回復し、本然の創造目的に一致しているため、全ての肯定的な人間の発展において中心的役割を果たします。このような家庭がなければ、人類は道徳的判断が出来ず、この時代の難題に立ち向かう確信も持てず、我々の子供たちと孫たちのための明るい未来を建設することもできないことでしょう。人間社会が進む道は、我々がこの真理をどれだけよく理解し、それを行動に移すために、今日どのような選択をするのかによって

決まります。

宗教的・人種的・文化的・経済的緊張故に、人類がより分裂を深めている今この時、我々は共通の目的を見だし、全ての人が神の息子娘として尊重される世界に向けて協力しなければなりません。信仰と良心を持った者として、我々は教理やイデオロギーの違いを乗り越え、世界の偉大な宗教伝統の由緒ある教えに含まれている普遍的原理や共通の価値観を認知しなければなりません。何よりも、我々は共通の創造主へ向かうよう人類のスピリチュアルな意識を啓発し、One Family Under God (神の下の一大家族)の世界を築くために協力していかなければなりません。一度に一家庭ずつ進めていくのです。

家庭平和協会の公式出帆において、私と手を結んでください。神が喜び住まわれる家庭、神の光と平和が世界中に広がる家庭を立てることによって、平和の時代の到来を告げる努力を共にして行きましょう。

皆様に神の恵みがありますように。ありがとうございました。